

平成22年度 室戸小学校 学校評価

項目	目標	22年度評価項目・具体的取り組み	達成状況・改善方策	自己評価	学校関係者評価
① 教科指導	中・長期目標 ○「意味を問う教育」「論理的思考力を高める実践」を通して、ものごとの真実や本質、価値や法則を認識させる。	①算数科は、全学年複数の指導者で授業を組み立て、日常的にOJTを活性化させる。 ①「授業評価表」や「はなまる日記」などを活用し、理解状況や学習意欲を把握して授業改善に生かす。 ①朝のモジュールを工夫活用する。 ②講師を招聘し理論研修を行い、授業で検証する。 ②年間12本以上の研究授業を実施し、授業力の向上を図る。 ※全教科、単元終了時の評価テストで、平均正答率80パーセント以上を目指す。	<達成状況> 平成22・23・24年度の三年間、高知県新教育課程拠点校指定事業の指定を受けた。改訂の柱である「言語活動の充実」を重視した授業力向上のための校内研が、職員一同ベクトルを合わせ研究できたことが何よりも成果である。 「論理的思考力を高める授業の創造」を研究テーマに掲げ、左記の項目については、概ね達成できている。 問いが問いをよぶ授業の構成、自力解決の場面の適切な課題設定の投げかけ、家庭学習の内容と授業の実際とのリンクなど、改善するところも多々ある。 <改善方策> 質の高い提案授業を繰り返し行い、教師自身が知的探求心を持って、授業改善に挑む。	A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (要改善)	評価 A B C D 自己評価は「B」であるが、先生方の日々の研修姿勢や研修内容は「A」に値する。質の高い授業をすればするほど、評価基準が高くなる。いっそうの努力で、児童の学力向上につながることを期待して、「A」。
	短期目標 ①どの子にも分かる授業を展開し、自ら学ぶ意欲を高め、支持的風土に満ちた教科経営を目指す。 ②「論理的思考力を高める授業の創造」について、研究と実践をすすめる。				
② 道徳教育	中・長期目標 ○基本的な倫理観、他者との共生や異なるものへの寛容、自立心、自己抑制力など、日常生活での実践力を養う。	①②道徳教育の要となるのが「道徳の時間」であることを認識し、確かな指導計画による実践とタイムリーな指導を心がける。 ①②地域の人材を活用した道徳的体験活動を充実させ、道徳の時間に生かす。	<達成状況> 授業づくりのポイントについて学習会をしたり、学習資料を基に教材分析の校内研を開くなど、研修を深めることができた。また、あらゆる教育活動と道徳の時間との関連表を各学級担任が作成し、道徳教育を充実させる意識が向上した。ただ、実践面で言うと、児童の道徳的実践力が育っていないことや研究内容が組織的な実践交流にまで至っていないのが残念である。 <改善方策> ・教材研究や校内研での学習時間の確保 ・公開授業を実施し、授業構成や展開についての学習を深める ・教材資料のストックや、授業実践の記録をストックし、実践交流に努める。	A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (要改善)	評価 A B C D 校長は、児童の道徳的実践力が育っていないこと、組織をあげての道徳教育の実践力が充実していないことを根拠にして、「C」評価をしている。しかし、夏の市教研で公開授業をするなど、先生方の道徳教育に対する前向きな姿勢は、もっとよい評価ができる。今後の、児童の道徳的実践力に期待すると「B」評価が妥当であろう。
	短期目標 ①心に響く体験を生かした時間や家庭や地域と連携した学習指導を充実させる。 ②命を大切に作る心や伝え合う力身につけさせ、望ましい人間関係を築くと共に自己の生き方を考える学習指導を充実させる。	①②「心のノート」を有効活用するなど、道徳的習慣の確立を促し、家庭との連携をすすめる。			
③ 人権教育	中・長期目標 ○人権に対する正しい認識を培い、子ども一人ひとりの人権意識を高める。	①確かな指導計画による実践とタイムリーな実践を心がける。 ①今日的な7つの人権課題を各教科や特別活動に織り込み実践する。 ①Q-Uを活用し、児童個々や学習集団をよりよき方向に導く。 ②人権教育の一部分を人権参観日で公開する。	<達成状況> 「人権の集い」では、全校児童が標語や作文で、人権大切にする思いが表現できた。また、人権参観日を開催し、保護者向けに全学年学級で人権教育の公開授業が実施できた。 Q-Uの分析をもとに、検討会を開き、スクールカウンセラーを助言者にして、気になる児童個々の人権的な立ち位置での校内研ができた。 平和展、平和七夕集会などを通して、児童の内面に訴える学習ができた。 <改善方策> 児童の実生活に、人権を無視した言動が間々ある。道徳的実践力と合わせて、「思いやり」の心を深める授業実践が必要。	A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (要改善)	評価 A B C D 各種行事、QUの分析、SCの活用など、教育活動のあらゆる場面で人権教育が推進されているようである。
	短期目標 ①みんなの問題を自分の問題として考え、協働する学習・生活集団をつくる。 ②人権意識を高め合う場を設定し、くらしの中の不合理や矛盾に目を向けさせ、命を大切に作る心や伝え合う力を身につけさせる。	②人権集会を開催し、くらしの中の矛盾や不合理について、標語や作文で表現し、伝え合う力を養う。 ②平和展、平和七夕、平和集会を開催し、平和であるからこそ見えない「命の尊さ」に気づかせる。			

項	目 標		評価項目・具体的取り組み	達成状況・改善方策	自己評価	学校関係者評価	
④ 特別支援教育	中・長期目標	○個に応じた指導法の研究及び支援体制を整える。 ○交流学习を通して児童の社会性を育てる。	①研究授業を実施する。 ①②個別の支援計画を作成し、個に応じた支援をしていく。 ②特別支援校内委員会及び課題対応委員会を毎月1回金曜日に開催する。 ②講師招聘研修を行い、児童理解や指導法を学ぶ。 ②スクールカウンセラーの活用を児童・保護者に啓発する。	<p><達成状況> 特別支援校内委員会及び課題対応委員会の時間設定が少なかったが、SCに助言をいただき、少ない時間の中で中身の濃い研修ができた。また、支援教育支援員の活躍できめ細かな個別支援ができた。 講師招聘研では、障がいを理解した上での効果的な手立てについて研修を深めることができた。事例から学ぶことは重みがあり、研修を学級経営に生かすことができたのではないかと。</p> <p><改善方策> 個別の教育計画を有効活用させることと、個別の支援計画を作成し、保・小・中の連携はもとより、さらには、進路のことまでを網羅する設計を保護者ととも立てる必要がある。</p>	A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (要改善)	評 価	A (B) C D
	短期目標	①特別支援学級に在籍する児童について、全職員で児童を理解し、全職員で育てていく。 ②特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、指導法について共通理解を図る。				特別支援校内委員会及び課題対応委員会の設定時間など、課題があるようであるが、個別支援、講師招聘研修など、組織がベクトルを合わせた取り組みができているようである。 児童個々の内面を的確に捉え、学級づくり、学習集団づくりに生かしてほしい。	
⑤ 生徒指導	中・長期目標	○基本的な生活習慣の確立をめざす。 ○認め合い、支え合い、高まり合う学習集団づくりを推進する。	①「早寝・早起き・朝ご飯」を推進する生活実態調査を実施する。 ②毎週の職員会で共通理解を図る。 ②課題対応委員会を定例化させ、継続して課題解決に努める。 ②Q-Uアンケートを実施し、結果分析をもとに、よりよき学習集団の育成に努める。 ③保護者、家庭児童相談所、教育研究所との連携を密にし、課題解決に努める。	<p><達成状況> 毎回の職員会で、「気になる児童」を議題におき、各学年学級における課題を全職員が共通認識できている。ただ、「課題の共有」はできても、「解決への協働」にまで至っていない。学級担任に任せてしまうことが多いのが現状である。課題の早期発見、早期対応ができているので、「解決への協働」について、組織をあげて取り組む必要がある。他機関との連携を密にしながら、保護者の理解も含め、協働するシステム作りが必要である。</p> <p><改善方策> 「解決への協働」について、組織をあげて取り組む必要がある。他機関との連携を密にしながら、保護者の理解も含め、協働するシステム作りが必要である。</p>	A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (要改善)	評 価	A (B) C D
	短期目標	①望ましい生活習慣の確立を目指す。 ②児童理解・把握を全教職員で共通認識し、課題の早期発見、早期対応に努める。 ③保護者・地域・関連機関との連携を図る。				児童の生活習慣や生活の課題について、職場全体が共通認識して課題に取り組んでいる。 簡単には解決しない課題がたくさんあると思うが、解決に向けて実践を積んでほしい。	
⑥ 進路指導	中・長期目標	○ キャリヤ教育の推進 『働くことや仕事を理解する力』『将来を設計する力』『意志を決定する力』『人間関係を築く力』を身につけさせる。	①朝のモジュール、放課後指導、日々の授業実践で学力の基礎基本の定着を徹底して取り組む。 ①家庭学習を充実させる取り組みをする。 ②体験活動を充実させる。 例、(社会見学) (田植え・稲刈り) (捕鯨・鯨舟唄の学習) (魚食文化の学習・調理体験)	<p><達成状況> 各学年、教科指導はもとより、体験学習によるキャリア教育が展開できた。 2年生、3年生の地域職場訪問、4年生のアイマスク、車いす体験、5年生は、発電所の見学、田植え稲刈り、魚食文化の学習、6年生の捕鯨・鯨舟歌など地域芸能の継承とその発表など、各学年独自で労働の意義や文化継承の価値を認識させる取り組みができた。</p> <p><改善方策> 教育活動の全体で、『働くことや仕事を理解する力』『将来を設計する力』『意志を決定する力』『人間関係を築く力』を意識し、基礎基本の学力を身につけさせることを基調とした教育活動を展開する。</p>	A (十分達成) B (概ね達成) C (やや不十分) D (要改善)	評 価	A (B) C D
	短期目標	①進学・就労保障の基盤を、学力の保障と捉え、基礎学力の定着とその向上に努める ②勤労・生産的活動や体験学習を通して、労働の意義や価値を認識させる。				充実したキャリア教育ができている。各学年で、労働や生産、福祉等々、体験させるべきことをきちんと体験させていることが評価できる。	

項	目 標		評価項目・具体的取り組み	達成状況・改善方策	自己評価	学校関係者評価	
⑦ 安全管理	中・長期目標	○学校内外の安全教育に取り組み、児童が安心して学習や生活ができる環境をつくる。	①毎月20日を安全点検日とする。 ・遊具安全点検表の活用 ②歩行者及び自転車交通安全教室や自転車安全点検を実施する。 ②PTA、校内交通安全委員会が連携して交通安全街頭指導をする。 ③避難訓練（地震・火災）を定期的に開催する。 ③緊急時を想定して、集団下校を実施する。 ④不審者危機管理マニュアルを確認し、関係機関との連携を密にする。	<達成状況> 校舎耐震工事の関係から、施設・設備の安全管理には気を遣った。 交通安全教室や街頭指導については、計画通りの実施ができたが、児童の実態として、自転車の乗り方に課題がある。ヘルメットの着用も次第に増えてはいるものの、保護者の姿勢に温度差があるように思われる。 防災訓練のありようを今少し工夫する必要がある。	A（十分達成） B（概ね達成） C（やや不十分） D（要改善）	評価	A (B) C D 「C」はきびしすぎる。どうしても、物理的に無理なこともある。学校の危機管理が問われるけれど、学校だけが管理責任を問われることでもない。外部から見ると、「C」評価にするほど安全管理を怠っているとは思えない。
	短期目標	①校舎内外の危険箇所を早期に発見する。 ②交通安全教室を開催し、交通ルールを守る意識の向上を図る。 ③避難訓練（地震・火災）を定期的に開催する。 ④不審者に対する意識を向上させる。	<改善方策> ヘルメットの着用について、学校の規則として義務づける方向で取り組みたい。 地震に際しての避難場所やその方法については、いろいろな角度から検討し、教育委員会とも連携しながら、これまでのマニュアルを見直し、新たな安全対策を講じる必要がある。				
⑧ 学校組織の確立	中・長期目標	○『児童一人ひとりの学力向上、学校全体の教育力向上のために、学校組織はどうあるべきか』を追求する。 ○学校経営のPDCAサイクルの確立させる。	①校内研究テーマ：『論理的思考力を高める授業の創造』を推進する。 ②校長・教頭・主幹教諭・指導教諭が学校運営検討会を組織し、各種企画委員会を活性化させる。 ②教育活動全体で目的意識、価値意識、課題意識を共有する。 ②職員相互の報告・連絡・相談を密にする。 ③学級経営サポートのシステムを構築し、機能させる。 ・チームティーチング等 ①②③④企画を実践で検証し、PDCAサイクルを活性化させる。	<達成状況> 主幹教諭・指導教諭の新しい職が配置されて2年を経た。職場の縦の関係が強固になることで、教科指導面、生活指導面両面で、ベクトルを合わせた組織的な教育活動が展開できた。特に、授業力向上のための取り組みは、新教育課程の指定事業の兼ね合いもあって、建設的な営みできた。また、学級経営・教科指導サポートシステムを機能させることで、学級担任の仕事量の軽減、教職員のメンタルヘルス面での支援が有効に実践できた。	A（十分達成） B（概ね達成） C（やや不十分） D（要改善）	評価	A (B) C D 学力の基礎基本の向上、生活の基礎基本の向上に組織をあげて取り組んでほしい。特定の職員にすべてを任せるようなことのないように。
	短期目標	①校内研を充実させる。 ②職員一人ひとりの能力が発揮でき、行動できる教師集団を目指す。 ③学力に伸び悩む児童に組織で取り組むシステムを構築する。 ④学校経営のPDCAサイクルの確立させる。	<改善方策> 組織で、課題の共通認識ができて、解決の協働まで至っていない。課題解決が、学級担任任せになっている部分を是正する。				
⑨ 保護者・地域との連携	中・長期目標	○開かれた学校づくりを推進し、理解と協力を得ながら、信頼される学校づくりを目指す。	①学校日より、学級通信を通して情報発信をする。 ①家庭訪問、電話連絡を怠らず、常に報告・連絡・相談の意識を持ち実践する。 ①PTA活動を充実させ、積極的な参画をして信頼関係を結ぶ。 ②三校連絡会を充実させる。 ②保小連絡会を充実させる。 ③伝統行事・伝統芸能や地域の催しに参加し、連携を深める。 ③「室戸地区教育を進める会」や「室戸の子どもを育てる会」に参加し、協働して児童の健全育成を図る。	<達成状況> 学校評価アンケートによると、教育活動については、肯定的に捉えてくれる意見が多かったが、少数の意見に、指導力のありようについて、厳しい判定やアドバイスがあった。 また、本年度の、耐震工事に伴う給食休止の措置については、お叱りの意見が多数あり、学校としての対応の仕方や周知徹底するときの了解の求め方など、反省させられた。 保小中連携は、地域との連携は概ね達成である。	A（十分達成） B（概ね達成） C（やや不十分） D（要改善）	評価	A (B) C D 学校評価アンケートの結果が、肯定的な意見が多かったという評価である。少数のきびしい評価を大切にして、保護者・地域との連携を深めること。
	短期目標	①学校教育の情報を発信すると共に、保護者や地域からの情報を把握し、教育活動に生かす。 ②室戸中、元小、岬小、保育園・所との連携を図る。 ③各種行事や体験活動を通して地域との連携を深める。	<改善方策> PTA活動とは別に、学校から発信する内容を増やす。例えば、参観日とは別の授業公開や研究発表会、図書室利用などの案内。				